

小生は心療内科院長と産業医として、色々な業界と社風に接してきた経験を持ちます。産業医という視点は、高ストレス者や身体表現性障害の社員さんの面談を通じて、上司、人事など多くのソースから経過観察を行います。近年、「うつ病」や「適応障害」、いわゆる「神経症」の社員さんが、独特な傾向をもち、薬物療法に抵抗性であり、人格の障害、ないし、人格の形成過程に偏りをもち、それなりの学歴があったり、人生のベテランの年齢だったりする社員さんが、短絡的で誤ったストレスコーピングを有しております。そこで、神経発達症という「人間の分類」に近い診断を通じて、生きにくさの根源らしきものを見出し、ある一定の治療と配慮をすることで、生き生きとなることに気づかされました。小生はこれを「生活の質が改善する治療」と銘打っており、今回はその特性の理解を改めて確認しました。